

経営比較分析表（令和元年度決算）

山形県 最上川中部水道企業団

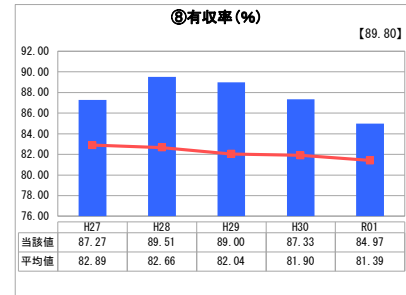
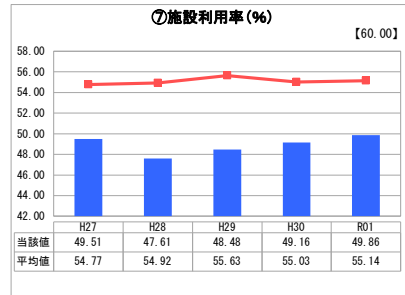
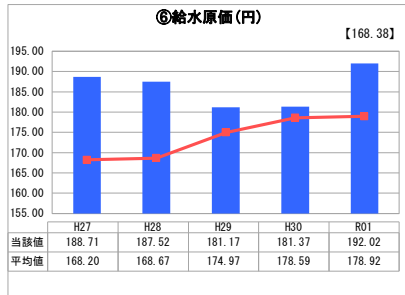
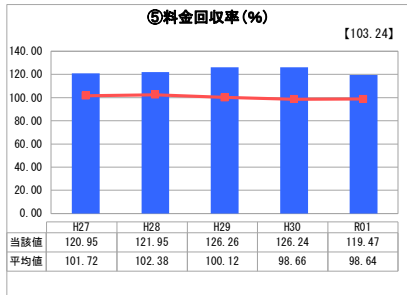
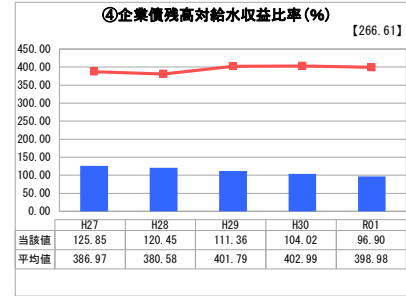
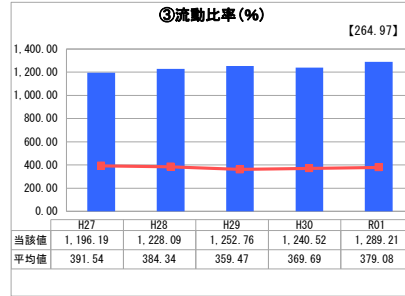
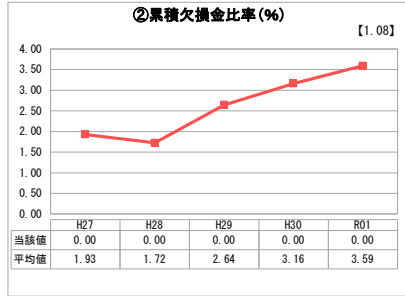
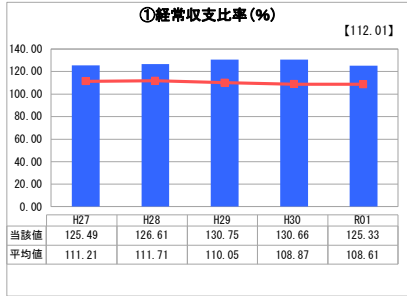
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	民間企業出身
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	81.98	99.93	4,700	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
26,443	42.15	627.35

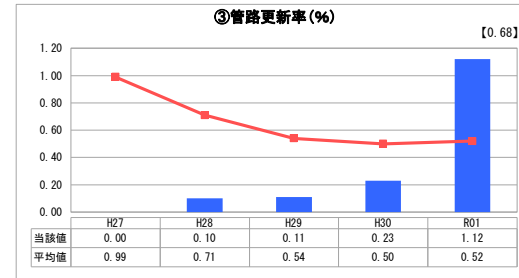
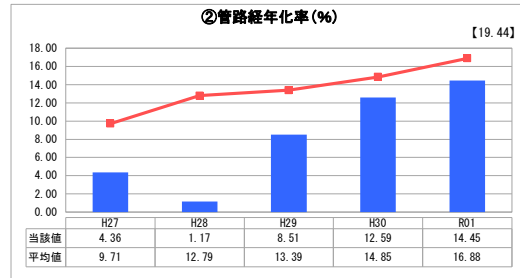
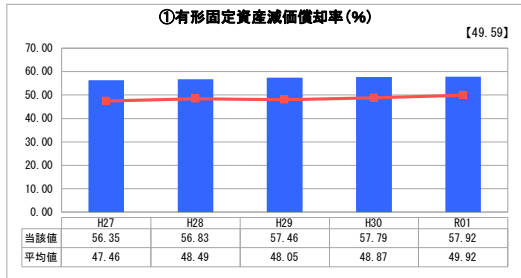
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和元年度においても、経常収支比率は100%を超え、累積欠損金比率はゼロであり、黒字経営を維持することができている。
 流動比率においても、類似団体平均値を大きく上回っており、流動資産の減少傾向もない。平成23年度以降、新たな企業債の借入がないことも要因の一つと考えられる。
 料金回収率は100%を超えていることから、給水費用を給水収益で賄えており、適切な料金収入を確保できている。
 有収率について、類似団体平均値を上回っているものの、令和元年度は前年比△2.36%減となった。元年度は漏水件数が多く、有収率に影響した。このため、例年同様、漏水調査を重点的に行い、漏水の早期発見など、さらなる有収率の向上を図る。

2. 老朽化の状況について

管路経年化率について、今年度に法定耐用年数を経過した管が増加したため、前年に比べ1.86%増加した。
 管路更新については、補助金事業を活用し、送水管入替工事や配水管布設替工事を行い、管路更新を図っている。今後も、耐震化計画等に基づき効率的な更新を行っていく。

全体総括

人口減少・給水収益の減少など、経営環境は厳しさを増す中ではあるが、比較的良好的な経営状況を維持できており、安定した推移を保っている。
 上記1にも記載したが、近年漏水件数が増え、有収率も減少傾向にあることから、漏水調査にも重点を置きつつ、重要な管路・経年化管を中心に布設替を進め、老朽化対策を行っていく。
 施設の老朽化、それに伴う更新費用の増加等、諸課題に対し一層の経営努力により、各種計画の着実な遂行を目指す。